

～その人らしく生きるお手伝い～ 食べる力は生きる力

あなたの思い出の食事は何ですか？

子どもの頃に好きだったもの…、人生最期の時に食べたいもの…

病気になると食べることが難しくなることがあります

大野浦病院では一口でも口から味わう、食べることを大切にしています



食べやすく飲み込みやすいお寿司
シャリもネタもゲル化剤で固め
噛みやすく、飲み込みやすく



美味しい食事の提供
月2回の行事食やお楽しみ食

口から食べるための取り組み

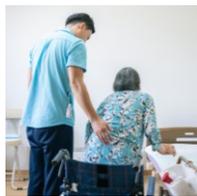
口づくり

- ・味わうためのきれいな口
- ・噛むための義歯
- ・口腔ケアは必ず毎食後に実施



身体づくり

- ・ベッドから離れた活動
- ・座る練習
- ・栄養管理
- ・食事の時には食堂へ移動



環境づくり

- ・食べやすい姿勢づくり
- ・美味しい食事の提供



現場や研修で活用しています



多機能
車いす用テーブル



UIクッション



POTT用バスタオル

院内教育

食支援マスター

院内認定制度：マスター21名
看護師、介護士、リハビリスタッフ、
歯科衛生士が活動しています。
楽しく、美味しく味わえる特別な時
間づくりをサポートしています。



POTT (ぽっと) プログラム

POTTとは、ポジショニングで (PO) 食べるよろこびを (T) 伝える (T) プログラム。

食べる喜びは人々の大きな願い。

よい食事姿勢は、自分で食べる可能性を拡げ、誤嚥を防ぎ、安全安楽に食べることが可能になります。

大野浦病院では、POTTを積極的に取り入れ学んでいます。2022年10月に全国で初のPOTT道場を開催。

2023年度2期生の研修が終了しました。

研修目的

- ① 正確なポジショニング技術を学びあう
- ② 事例検討によりの確な評価ができ食事時のポジショニングに繋げる
- ③ 職場や地域で技術伝承ができる指導力を向上させる



POTTプログラム
ホームページ

POTT道場

第1回 ベッド上のスキルチェック 基礎編



まずは患者体験。ギャッジアップ・ダウンの際の体のズレが予想以上。背抜きの効果に感激！

第2回 車椅子のスキルチェック 基礎編



対象者に合わせた端巻きタオルの巻き方を学ぶ。少しの姿勢の違いで水の飲みやすさが違う！

第3回 ベッド上のポジショニング 事例検討



クッションが少ない中でもバスタオルなどを利用して色々なポジショニングが学べた。現場で実践！

第4回 車椅子のポジショニング 事例検討



1つ1つのポジショニングに根拠があり、理解した上でスタッフへ伝承していきます！

誤嚥予防,食事のためのポジショニング POTTプログラム [Web動画付]

迫田 綾子, 北出 貴則, 竹市 美加 ●編

B5・頁192
定価 2,750円(本体2,500円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-04322-9

評者 川嶋 みどり
日本赤十字看護大名誉教授

人間の食事は生命の維持やエネルギー源になるばかりか、おいしく楽しく食べることで幸福感や充実感さえ得られ、飲食を媒介にして親睦や相互交流を深めてきた。また、古くから家庭でも病院でも、病人の食事は療養の基本とされ重要な位置を占めてきた。終末期であってもスプーン1杯のスープが生きる力に通じるように、衰弱している病人が少量でも何かを食べることで意欲が増し回復に向かうことは、私の看護師現役時代に少なからず経験したことである。だが、輸液、非経口的栄養摂取法の発達、簡便な胃瘻造設、NST加算などの診療報酬による誘導、加えて分業や病院給食の外部位化に伴い、患者の食事の世話をすることに対する看護師の関心も次第に薄れてきた印象がある。

一方、高齢化のもとで70歳以上の高齢者の肺炎の7割以上が誤嚥性肺炎であるという厚生労働省のデータなどがあることから、摂食嚥下障害者への対応については看護・介護面でも注意喚起が促されてきた。そのため誤嚥性肺炎の予防策としては、口腔ケア、口中に含む食事量の管理、食事姿勢の調整などが知られているものの、食事中に1回むせただけで経口摂取を禁止、経管栄養に切り替えて食べる楽しみを奪う現状もある。

上記のような背景のもとでも、「口から食べることの意味」を尊重し「何とかして食べてほしい、安全に嚥下してほしい」思いを抱いている看護師の存在も無視できない。そのような思いをすくい上げ、組織化し具体化するために立ち上げられたのが、本書編集者らによるPOTT【ポジショニングで(PO)食べるよろこびを(T)伝える(T)】

プロジェクトである。誤嚥を予防し食事の自立を通して豊かな食生活をめざし、技術と教育方法のプログラムを構成した。その核をポジショニングに特

化した契機は、POTTプロジェクト代表で本書の編者の迫田綾子氏が立ち上げた摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程の演習(2009)にあった。同時に「誤嚥を予防する食事時のポジショニング教育モデルの構築」研究〔科学研究費助成事業、基盤研究(C)、2009〕から得た臨床知を踏まえて、数年以上にわたってプログラムの効果検証研究を重ねながら普及研修の基盤を整え



た。以来、その活動は全国各地に飛び、POTTプログラムの心と技の伝承を受けた看護師らの数も相当数に及んでいるという。そのプログラムは、ベッド上および車いすポジショニング、食前、食事中、食後の姿勢調整と食事介助の実際で、本書はその多彩な組み合わせのバリエーションに沿いながら、ビジュアルな展開によって初心者にも理解可能な内容になっている。今後、本技術を広く高齢者ケアに活用するためには介護分野に普及させる必要があり、ベッド上ではなく通常の食卓での椅座位におけるポジショニングの記述が必須の課題であろう。

ともあれ、全身状態、姿勢保持能力、摂食嚥下機能の総合アセスメントにより、無理のない合理的なポジショニングを決定・保持し、ケアする人もされる人も「食べるよろこびを伝え、支え合う」。その結果、受け手のQOLと支援者の次なるケアへのモチベーションを高めることはいうまでもない。ぜひ一読をお勧めする。

週刊医学界新聞 第3530号

お問い合わせ：大野浦病院地域連携室 0829-54-2986